

『桶川市内循環バス「べにばなGO」の見直し運行計画(素案)』の概要

背景

- 市内循環バスの運行目的(平成13年運行開始)
 - 公共交通空白地域の解消
 - 高齢者等交通弱者の移動手段の確保
- 市内循環バスへの改善の要請
 - 市民、利用者からの要望
 - ・利便性の向上・・・「相互運行の実施」、「運行本数の増便」、「桶川駅への速達性向上」等
 - 市からの要請
 - ・総合振興計画、総合戦略等の上位計画からの要請「歩いて暮らせるまちの実現」
 - ・持続可能な行政負担額のあり方の検討
- 市内循環バスの現状
 - 運賃収入の減少・・・利用者の減
 - 運行経費の増大・・・燃料費、人件費等の増

以上の状況を踏まえ市内における持続可能な公共交通の確立を目指し、「桶川市地域公共交通会議」において、市内循環バス「べにばなGO」の見直しについて議論をすすめています。

見直しの前提条件

- 公共交通の骨格となる民間路線バスのルート・運行サービス、タクシーサービスの維持
- 市内循環バスは、民間路線バスを補完し、より市民が利用しやすい運行サービスを提供

市内循環バスの見直しの方針

- 市内循環バス見直しの方針
 - ①民間路線バスを維持する観点から、路線バスとの競合を極力回避する。
 - ②桶川駅への速達性を向上するルート及び運行形態とする。
 - ③ルートの所要時間が拡大しない範囲で、市内の主要施設へのアクセスを確保する。
 - ④見直しに当たっては、路線バスとの均衡を考慮しつつ、運行サービスに見合った料金設定を行う。
※要配慮者(高齢者等)の料金設定も必要に応じ検討する。

この4つの見直し方針に基づき検討を重ね、このたび市内循環バス見直し運行計画(素案)を作成いたしました。

1. 市内循環バス見直しルート(裏面参照)

- (1)ルートの考え方
 - ①路線バスとの重複を避けたルートを設定
 - ②駅東西を分けたルートを設定
 - ・駅東側は大小2循環とし、内回りと外回りを逆に運行することで、市街地の相互運行を実現させ、利便性を向上させる。
 - ・駅西側は、南北のルートに再編しそれぞれ郊外まで往復するコンパクトなルートにすることで、市街地の相互運行を実現させ、利便性を向上させる
 - ③駅との速達性が向上するようなルートを設定

- (2)運行ルート、運行便数 ※運行便数は想定のため、実際の運行とは異なる可能性があります。

運行ルート(基本ルート)	運行便数	備 考
駅東側:外回り(赤路線:坂田→舎人スポーツパーク→東部工業団地回り)	13便以上 (現行13便)	
駅東側:内回り(緑路線:加納→べに花ふるさと館→総合福祉センター回り)	13便以上 (現行8便)	小針領家経由、神明経由便有(各5便程度)
駅西側:北ルート(黄路線:殿山団地→諏訪神社→生涯学習センター→はにわの里回り)	6便以上 (現行6便)	朝日経由、上日出谷戻り便有(各5便程度)
駅西側:南ルート(青路線:サン・アリーナ→桶川西高校→川田谷原回り)	13便以上 (現行13便)	桶川西高戻り便有

- (3)運行日及び運行時間帯

- ①運行日:平日、休日ともに運行
- ②運行時間帯:概ね7時台から21時台での運行

2. 運賃

- (1)路線バスの運賃を考慮し、基本料金200円均一(※)する
※参考 市内の民間路線バスでは、市内で利用する場合「100円～320円」で運賃設定されています。

- (2)乳幼児、障害者(児)の無料措置に加え、小児運賃の割引について導入を検討

3. 車両

- (1)現行と同様の小型バス、中型バスを利用

